

令和5年度 東京都立東村山高等学校 学校経営計画

1 目指す学校

学び直ししようとする者を誰一人取り残さないきめ細かく、丁寧な指導による教育の推進

教育目標「愛と創造」とともに、スローガン「他者(ひと)のために、一歩先の自分へ」に則り、社会の変化に主体的に対応でき、社会貢献できる人物の育成

(1) スクールミッション

「人類の発展と平和に尽くす青年の育成を目指し、次代の良き人材として、伝統と歴史を正しく認識し、新時代の開拓者、個性ある文化の創造者として活躍でき、自己実現の努力を継続する資質を培う。」を学校の使命とし、「他者(ひと)のために、一歩先の自分へ」のスローガンの下、社会に有為な人材を育成します。

(2) スクール・ポリシー

① グラデュエーション・ポリシー

ア 中学時代の「つまずき」を克服し、基礎学力を身に付け、高校の学習内容を習得し、進路活動に必要な知識を育成する。

イ 学習の基本である「読解力」を高め、語句の基本的な意味や書き手の意図を読み解き、課題に対し解決する能力を高める。

ウ コミュニケーション能力を身に付けることで、人の話を聞く力、自己の意見を伝える力を育て、自他の考えを尊重できる人材を育成する。

エ 「自ら学ぶ力」を伸ばさせ、「自分の課題を発見し、課題解決ができる力を育てる。また、団体生活を行う上での規律やルール、適正な行動が取れる人材を育てる。

オ 将来の進路実現に向け、職業について学び、必要な知識を身に付けるために、キャリア教育を充実させ、近い将来を見据えたキャリア設計や社会貢献について考え進路希望を実践させる。

② カリキュラム・ポリシー

基礎学力の定着を図り、きめ細かな指導の徹底により、進路実現を達成し、変化する社会に積極的に対応する能力を育て、進学応援型エンカレッジスクールの目標を実現する。また、他者を助けることのできる資質を育て、他者のため社会のために役立つことで、自分を成長させ、一歩先の世界に進める人材を育成する。

ア 生徒一人一人の習熟度に応じた指導や少人数指導を展開する。

イ 全ての生徒が基礎基本を身に付けるよう30分授業等実施する。

ウ 理系・文系の選択を行い、多様な進路に対応する。

エ 情報化社会に対応できる人材育成を目指す。

オ 国際交流や日本の伝統文化を学び、国際社会の一員としての意義を学ぶ。

カ 体験学習をととして、自己の資質や能力を広げる。

③ アドミッション・ポリシー

ア 時間を守り、挨拶のできる生徒

イ こつこつと努力のできる生徒

ウ 卒業を目指して毎日通学し、学習規律を守り、学ぶ意欲をもっている生徒

エ 部活動や生徒会活動、学級活動、学校行事及び校外の活動に積極的に参加し感動体験を味わいたい生徒

オ 進路に対して目標をもち、自分の将来設計が描けるような選択の力を身に付けたい生徒

上記の5つに加え社会貢献・地域貢献や進学意欲、高い志をもっている生徒を育成するために、主体的に学び、体験活動を充実させる。

2 中期的目標と方策

エンカレッジスクールとしてスタートして、今年度は14年目となり、5年後には、東村山高校創立60周年を迎える。「他者(ひと)のために、一歩先の自分へ」をスローガンの下、分かりやすい授業の実践、エンカレッジスクールの特色を生かした教育活動、補習・講習等の充実で生徒の満足度を高め、将来、社会の変化に主体的に対応でき、社会貢献できる生徒を育成する。

- (1) 進学応援型エンカレッジスクールとしての指導体制の確立と教育課程の構築。
 - ①「基礎学力」、「読解力」、「自ら学ぶ力」、「コミュニケーション能力」、「キャリア設計・社会貢献意識」の5つの力の伸長。
 - ②特別進学クラスの特性の伸長と一般クラスの内容充実。
 - ③授業力向上や個に応じた教育支援等の課題解決のための校内研修の充実及び人材育成。
 - ④外部人材を活用した基礎学力の向上。
- (2) 3年間を見通したキャリア教育の充実。
 - ①進路に対する明確な目的意識をもたせるため、第2・3学年に特別進学クラスを1クラスを編制。
 - ②計画的な高大連携・高大接続を目指した進路指導の充実。
 - ③多様性を尊重し、希望する進路を実現するための進路指導の一層の充実。
- (3) 主体性、協調性、責任ある態度を身に付けさせる教育の推進。
 - ①学校生活の心得を確実に身に付けさせ、地域との連携を深めた教育活動とともに奉仕活動等、社会貢献活動の充実。
 - ②多彩な学校行事の推進と対外活動への支援。
 - ③ホームルーム、生徒会活動、体育祭、文化祭を通して、役割と責任ある集団づくりの推進。
 - ④自転車乗車マナー向上・交通ルール遵守を通じて事故ゼロを目指す。
- (4) 心と体の健康づくりの推進
 - ①部・同好会の活性化及び体力向上と帰属意識の高揚を図る。
 - ②継続的な体力向上に向けての取り組みの遂行。
 - ③「教育相談の充実」を目指し、スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカー、学校医、関係機関等との連携を図り、中途退学防止を図る。
 - ④特別な支援を必要とする生徒へ配慮した基礎的環境整備の充実。
- (5) 組織的な学校経営と経営企画室の学校経営参画の促進。
 - ①全教職員の協働体制の構築及び企画・立案を積極的に行い、所属職員の意識向上を図る。
 - ②企画調整会議を軸とした学校経営・全教職員の協働体制の構築。
 - ③学校運営連絡協議会による学校関係者評価に基づいた、学校経営の改善。
 - ④予算編成と施設・設備の整備の充実。
 - ⑤「働き方改革」を推進し、育児中の職員のキャリア形成の促進と介護・仕事の両立支援を図る。
 - ⑥本校の特色をPRするための広報活動の充実。

3 本年度の取組目標と方策

- 目標1 「基礎学力を付ける授業」で生徒を成長させる
- 目標2 規律やルール、適正な行動が取れる生徒の育成
- 目標3 地域から期待され、中学生、その保護者、教育関係者から「選ばれる東村山高等学校」

重点事項

- 1 授業の充実
- 2 落ち着いた学校生活・教育相談の充実
- 3 応募者数の確実な確保

(1) 教育課程・学習指導

- ①基礎・基本の定着と「読解力」「自ら考える力」を身に付ける。
 - ア 「学びの基盤」プロジェクトによるプログラム検証。
 - イ 学力向上研究校（校内寺子屋事業）による主体的に学習する態度の育成。
- ②希望する進路を実現するために必要な学力の育成及び学習習慣の定着。
 - ア 特別進学クラスの特徴化の推進。
 - イ 朝学習・朝読書の推進。
- ③資格取得や各種コンクールへの参加。
 - ア スキルアップ推進校事業の有効活用。
- ④一人1台端末の活用
 - ア Teams 活用やBYOD、CYOD 導入に対応した学習指導の推進。
- ⑤観点別評価（3観点）の実施
 - ア 指導と評価の一体化を図る。
 - イ 第1・2学年における3観点評価実施。
- ⑥エンカレッジスクールにおける教育課程編成の検討。

(2) 進路指導・生活指導

- ①「A：挨拶 1日100回」「B：『美』『場』『服装・制服を整える』指導の徹底」「C：コミュニケーション 大事な話題は対面で」
- ②問題行動・転退学者の減少の実現及び体罰根絶、いじめの未然防止の徹底と進学率の増加。
- ③「進学応援型」の充実
 - ア 計画的なキャリア教育の推進。
 - イ 放課後や長期休業期間中の補習・講習の充実。
- ④「Sport-Science Promotion Club」の指定（バドミントン部及びビームライフル部）を核とする部活動の活性化。
- ⑤SC、YSW、学校医、関係機関等との連携とケース会議の充実。
 - ア 自立支援活動チームと通級学級コアグループとの連携の充実及び生命尊重の充実。
 - イ 中学校からの生徒情報共有シート等の活用と合理的配慮に基づいた指導の充実。

(3) 募集対策

- ①学校の取組みに関する積極的な情報発信
- ②中学生や保護者の視点での学校説明会、学校見学会、体験入学等の実施
- ③中学校の教員、塾対象に本校（エンカレッジスクール）の特色について発信
- ④グラウンド等の活用の充実を図り、地域と連携したイベントの展開

(4) 組織体制の強化と働き方改革

- ①PDCAサイクルに基づいた学校経営。
- ②経営企画室と一体化した学校経営を目指し、経営企画室のさらなる経営参画の促進。
- ③新型コロナウイルス感染症の対応と教職員の健康管理の徹底を図る。
- ④点検・環境整備・研修等を通して個人情報・情報セキュリティの適正管理を図る。
- ⑤生徒・保護者・その他都民に対する親切かつ丁寧な接遇の実施。
- ⑥教員との緊密な連携による効果的かつ正確な事務を遂行し、募集対策・入学者選抜の運営及び支援を行う。
- ⑦育児休暇取得経験者等を講師とする子育て研修会をはじめとして、働き方改革研修会を開催。

4 本年度数値目標

項 目	内 容	目 標
1 学習指導	(1) 授業研究（一人1回）、相互の授業参観（一人3回以上） (2) 生徒による授業評価（年2回以上実施） (3) 校内寺子屋出席率（基礎学力の定着） (4) 一人1台端末活用に向けた校内研修 (5) 観点別評価に関する研修会 (6) 長期休業中の補習・補講の実施 (7) 図書貸出冊数（図書館利用活性化） (8) 漢字検定・英語検定（3級以上）	100% 年2回 100% 年3回 年3回 全学年で30講座以上実施 3000冊以上 3級以上合格者合計30名以上
2 進路指導・生活指導	(1) 進路実現に向けたガイダンスや講演会 (2) 進路決定率 (3) 基本的生活習慣の確立 (4) 始業式・終業式で校歌斉唱	年30回以上 90%以上 1日100回の挨拶 中途退学者・転学者数合計 各学年5名以内（全校合計 15名以内） 年間のべ遅刻者数 3500名以内 特別指導件数 20件以下
3 心と体の健康	(1) 「Sport-Science Promotion Club」 (2) SC・YSWとの打合せ	関東大会・全国大会への出場 月1回
4 募集対策	(1) ホームページ更新 (2) 若鳩だより (3) 入選倍率	年間200回以上 年間5号以上発行 入選中進対倍率 1.4倍 入選推薦募集倍率 3.5倍 入選前期応募倍率 1.5倍
5 組織体制	(1) PDCAサイクルによる学校運営の見直し (2) 月当たり時間外勤務45時間を超える教員 (3) 年休5日以上取得 (4) 一般需用費センター執行割合	年3回 0（ゼロ）人 全教職員の取得を目指す 60%以上